

もりおか mirai おでかけミーティング実施報告書

開催日時	令和4年11月9日（水）午後2時～ 午後3時40分			
開催場所	盛岡大学 岩姫ラウンジ			
出席者	小笠原 秀 夫	大 石 仁 雄	大 谷 陽 介	三田村 亜美子
	工 藤 健 一	太 田 隆 司	豊 村 徹 也	鈴 木 努
	鈴 木 一 夫	櫻 裕 子	後 藤 百合子	中 村 亨
	遠 藤 政 幸			
	岩手県立大学学生 24 人			

【開催内容】

小笠原秀夫議員及び三田村亜美子議員の司会進行により、鈴木議会運営委員会副委員長の挨拶の後、ワールドカフェ方式による「盛岡市の20年後の未来」をテーマに、下記の3項目を題目にして意見交換を行った。

- ① 盛岡市の「誇り」に思うこと、「残念」に思うことは何ですか。
- ② 20年後、盛岡市のどんな未来を実現したいと願っていますか。
- ③ 盛岡市の20年後のありたい未来を実現するために、一歩踏み出して議会と大学生が一緒に取り組みたいことは何ですか。

○意見交換の中で出された意見や感想

【参加学生】

- ・まちづくりの目標を立て、目標実現のため年代を問わず協力したい。
- ・若い人が定住してくれるようにするためには、職場（特に賃金の問題）や子育ての支援を充実させていく必要がある。そのようなニーズを広く発信していきたい。
- ・想いを発信する場や議会を身近に感じるようにするためにはSNSが有効では。
→議会と学生が連携
- ・スポーツを通じて議員と交流を深めたい。
- ・若者はゲームが好きなので、eスポーツを活用するのもあり。
- ・20代市議会議員を増やして、若者目線の政策を行う。

- ・シャッター街を作るとさびしい街に見えるので、空き店舗を活用する。
- ・若者に興味を持ってもらえるようなPRをする。(SNSを使った発信)
- ・子育てがしやすい環境と支援を整えられるようにする。
- ・地元出身だからこそできることを見つけ取り組む。→子ども向けの防災教育。
- ・盛岡の魅力を見つけ、発信していく。
- ・市議会との話し合い(おでかけミーティング等)に積極的に参加し、自分たちの意見(若者の声)を発信する。
- ・楽しい保育の発信
- ・ワークショップ等への参加による意見発信。
- ・教育やジェンダーの問題について声をあげていくこと。
- ・SNSなどで何が問題でそのために市や県、国がしなければいけないことについて、自分の考えを訴えていくことは必要であるとする。
- ・若い人たちが住みやすい環境を積極的に作り上げる。
- ・他県から来たくくなるようなまちづくりを心がけるべきだと感じた。
- ・ワークショップ等に参加し、自分の考えを発信する。
- ・議員や行政に携わる人と話をする機会が複数回ほしい。
- ・議員と交流する機会があれば積極的に参加し、意見を伝えたい。
- ・悪い部分ばかり見ず、盛岡の魅力を発見する。
- ・各世代が行きたいと思う場所を設ける。
- ・盛岡で生活していける産業を提供する。
- ・世代間交流を企画する。
- ・盛岡をもっと知り、たくさんの人に伝える。
- ・新しいバスセンターに行ってみる。
- ・盛岡の魅力に触れる。
- ・議員や各世代の方と交流をしたい。
- ・盛岡市内の様々な場所に行き、魅力を発見したい。
- ・議員個人の盛岡の好きなどを聞く機会が今後あるといい。
- ・意見交換会をとおして、自分の考えを発表し、ほかの参加者の意見を聴くことで、市や県の魅力や課題を確認することが出来た。
- ・今後も意見交換会に参加し、話し合いの機会を持ちたい。
- ・意見交換をすることが大切。
- ・盛岡の良さをPRし、他県からたくさんの方が訪れる街にしたい。
- ・盛岡から出た人が、戻ってきたいと思える街。
- ・スポーツが盛んな街。

- ・選挙に行く。
- ・議員と対話できる場に積極的に参加し、自分の思いを伝える。
- ・議員との意見交換は、自分たちが生活しやすい街にするために重要と感じた。
- ・日常生活から街に目を向ける。
- ・盛岡で暮らす。
- ・インターンに参加する。
- ・ボランティアに参加する。
- ・国際交流の機会を増やしてほしい。
- ・SNS力を使って、基礎ゼミの授業で学んだことや、今日の意見交換の内容を世界にPRしたい。
- ・百貨店の方と協力して、岩手にない企業を誘致したい。
- ・大人と気軽に話せる場がほしい。
- ・20年後、モノレールが走っていたり、ドローンがとんでいたりが当たり前になったとしても、盛岡の喫茶店、映画館などの文化的なものが残っていてほしい。
- ・盛岡の魅力を発信していきたい。
- ・盛岡市のまちづくり、創生に貢献できるような取り組みをしたい。
- ・岩手、盛岡の幼児教育をもっと盛んにしていきたい。
- ・首都圏に負けないネームバリューを持った取り組みを盛んにし、盛岡の良さをPRしたい。
- ・さんさ踊りのPR活動の中で他県の方と関わるが多かった。伝統を残すためにもPR活動を積極的に行いたい。
- ・今回の意見交換会で特に印象に残ったことは、「若者が就職や進学を機に盛岡から離れてしまう。」という部分だった。賃金の問題や、働きたいと思える職場があまりないことが原因であると議論された。解決のために、若者のコミュニティスペースを作りたい。コミュニティスペースは、休日にふらっと来るイメージを考えている。客層は若者を中心とし、カフェや古着販売、交流する中で悩みや本音を語り合うなど。盛岡で楽しめる思い出が作れることを証明し、盛岡での定住を手助けしたい。
- ・アルバイトの賃金が安すぎる。
- ・ジェンダー平等に取り組んでいただきたい。
- ・公共交通をもっと便利にして欲しい。
- ・もっと若者が遊べる場所が欲しい。

【参加議員】

- ・若者がこの街で住み続けたいと思う環境づくりに着手する。

- ・自然豊かな長所を生かし、食べ物がおいしい文化はさらに育む。
- ・盛岡といえばこれ！というPRポイントを創造する。
- ・首都圏に負けない企業誘致に取り組む。
- ・SNSの充実を図る。(盛岡市議会)
- ・SNSで若者の声をもらえるしくみを作る。
- ・議会でSNS発信。
- ・議会を身近に。
- ・仕事の選択肢を広く。
- ・内丸地区に行政機能を集積し、実効力のある中心市街地を核とする、活動あるまちづくり。
- ・高齢者が安心していきいきと暮らせるまちづくり。
- ・妊娠、出産、子育てをトータルでバックアップするまちづくり。
- ・学生が盛岡で働きたいと思える環境づくり。
- ・交通インフラなどの整備でコンパクトなまちづくり。
- ・公共交通の充実を図る。
- ・教育環境の充実。
- ・賃金格差の是正。
- ・ジェンダー平等。
- ・若い衆と食べ歩き、飲み歩き。→ボーダーレスのコミュニケーションから宝のようなアイデアが生まれる。
- ・イベント運営、お祭りなどを企画準備から一緒に取り組む。
- ・「盛岡に残りたい」というきっかけ探しを一緒に行う、創る。
- ・学生との意見交換を続け、生の声を聴くことが大切と感じた。→日頃の学生生活の中のいろいろな思いがある。
- ・行政区が跨っている弊害があることがわかった。
- ・身体を鍛える。
- ・賃金を中央並みに高くしたい。
- ・公共交通の充実
- ・東京や仙台で取り組んでいる行政施策を取り入れる。
- ・若者が楽しめる施設。(商業、娯楽)
- ・夢と希望を叶えるため
 - ・教育・人材への投資。
 - ・消費者マインドにこたえるまちづくり。
 - ・起業や経済的豊かさ。

- ・子育てしやすい環境はそのまま大切に。

○学生アンケート自由記載欄

- ・貴重な機会を設けてくださりありがとうございました。率直な意見を聞けてとても良かったです体験となりました。
- ・盛岡大学のみでなく、他の大学生とも話したい。(県立大学、岩手大学など)
- ・議員の方と近い距離でお話することが出来てよかったです。
- ・とても活発な場となり、様々な視点から盛岡市を捉えることができ良かったです。
- ・これからの盛岡市のことだけでなく、議員の仕事の話も聞きたかった。
- ・とても有意義な時間で、また参加したいと思った。今回のような場をもっと増やしてほしい。
- ・もう少し交流したい。
- ・貴重な体験をすることができました。
- ・少しずつ盛岡市が良くなっていけばいいと思った。

○参加議員の所感

【参加しての所感】

- ・若い方々との意見交換ができた楽しい時間となりました。
- ・学生の皆さんが一人一人の意見を持っていて、素晴らしいと思いました。
- ・ファシリテーターとして参加させていただきました。初めての経験で緊張しましたが、無事に終わることができ、ほっとしております。貴重な経験をさせていただき感謝いたします。盛岡大学の学生さんは盛岡・岩手の未来に対し様々な意見やヴィジョンを持っており、感心しました。今後も学生さんや若い人たちから意見を聞く場があれば良いなと思いました。
- ・普段接する機会が少ない若い世代と、率直な意見交換ができる場を設けていただき、大変ありがたい。世代間ギャップをそれほど感じることなく、フラットなテーブルの上で、フランクに意見交換ができ、非常に良い場面展開であったと感じた次第である。
- ・以前も盛岡大学でのおでかけミーティングに参加しましたが、参加された学生は、ちゃんと現状と課題、自分の将来を見据えているなあと感じた。
- ・時代とともに大学生の意識や考え方が変わってきていると実感いたしました。定期的に意見交換が出来る場所の設定を希望いたします。大変有意義でありました。
- ・議員となって初めての参加であり、新鮮な気持ちで臨むことができた。

【意見交換の内容やテーマについての所感】

- ・議員としては気づかぬテーマがあり、新鮮に感じた。

- ・若者にあったテーマで良いと思う。議員は 20 年後といわれ困っていた方もいたが、若者から意見をもらう意味でも、このテーマは大切だと思います
- ・意見交換の内容は「盛岡市の 20 年後の未来」というメインテーマでしたが、これからは担う大学生と対話するテーマとしてはとても良かったと思います。現状を認識し、それを改善する施策の提案、20 年後という少し遠い未来を想像することによって、いろいろな意見が聞けて興味深かったです。
- ・「盛岡の 20 年を考える」ということで、現状に必要以上に囚われず、ある程度「夢」という目線も含めて、盛岡の将来がどうあればいいのかということ、特にこだわりもなくお話できたということ、非常に効果的だったと感じた。若い世代にとって、住みやすい街はどういったものなのかという観点で、様々な意見交換ができたという意味では、扱いやすく、そして価値のあるテーマ設定であったと認識している。
- ・盛岡の地域的・人間的、気候風土的な利点と働く環や公共交通、子育て環境の拡充への課題が出てよかった。
- ・卒業後の進路、就職先の苦労話を目の当たりにして、議会の立場からの力添えを痛切に感じたしだいです。(保育士等々)
- ・「盛岡市の誇りに思うこと、残念に思うことは何ですか」というテーマは、導入部としては話しやすく良いと思った。「議会と大学生が一緒に取り組みたいことは何ですか」は、学生にとっては少しハードルが高く、テーマ設定をもう少しかみ砕いた形にしてもよいと思った。

【意見交換の中で出された意見についての所感】

- ・電子マネー、交通系 I C カードなどの改善を求める声が多かった。若者が盛岡に失望せず、未来も残りたいと思ってもらうためには高齢者施策だけではダメだと強く感じました。
- ・参加された大学生の今後について伺いましたが、卒業後は関東や首都圏に就職希望されている方が多数いました。理由は様々ありましたが、「魅力的な就職先が少ない」「給料が安い」という意見が多かったと思います。やはり、若者が安心して盛岡で暮らしていくためには雇用創出の努力と待遇の改善を図る施策が重要であると思いました。
- ・目先の対応策として、交通系 I C カードが全てのバス、全ての鉄道で使えるようになってほしいとの意見があった。他県（宮城など）からの学生にとっては、既に S u i c a などのカードが使用できないことがストレスになっているというのが実態である。ほか、物事の二面性を痛感する意見もあった。例えば下記の通り。

美味しい食べ物がたくさんある ⇔ 何回か通わないと良さがわからない

自分の近所はスーパーも多く、暮らし自体は便利 ⇔ 遊ぶところが全くない

こうしたギャップを埋めるのが公共交通の役割であるが、現状、公共交通が不便である。学生にとっても新たな発見にも繋がったと思うし、我々にとっても、若い世代がどんなことを考えているのかというものを知る上で非常に良い機会であった。

今後は例えば、学校別ではなく、複数校の学生をミックスして開催するのもいいのではないかと考える。最後に、様々なことを本音で語り合うには、食べ歩き、飲み歩き、協働でのイベント企画・運営など、行動を共にする機会を作ることが肝要である、という点も申し添えます。

- ・いずれ岩手（地元）に戻りたくとも、収入等家族が生活できる見込みがなく残念に思っていると手厳しい意見が多かった。和やかな意見交換で、このような内容であれば友人を誘って、次もあれば参加したいとの言葉をいただきました。
- ・学生のライフスタイルの中で、交通系 I C カードの導入、買い物（衣・食）のしやすさなどを求める意見が多かったのが実感。
- ・定期的な議員と学生とのコミュニケーションを図る場を設けるという意見が、双方から出されたことが印象的だった。
- ・若者が楽しめる場所が盛岡にはないという意見が学生に共通するものだった。若者のコミュニティスペースの確保及び既存する盛岡という星で BASE STATION などの活用と積極的な周知が必要なのではないかと感じた。